

特集
静岡大学には、防災に関する教育や科学研究を総合的に展開する「防災総合センター」があります。「防災総合センター」が、自然災害が多発し、南海トラフ地震も危惧される中、本学の防災教育、防災科学研究、地域活動について、防災総合センターを中心に紹介します。

静岡大学の防災教育

最先端の研究を活かした



学ぶ

理学・工学・行政・
情報学・経済学・
医療など幅広く



プロフェSSIONALの
多彩な講義が魅力！
「地震防災」(全学教育科目)

行政の実務を担う静岡県職員や災害現場の取材経験を持つ報道関係者など、本学教員のほかに、数多くの専門家が講師となり、災害のメカニズム、被害軽減の技術、社会的な制度など、防災について多角的に学ぶことができます。2023年度は435名の学生が履修しました。さらに今年度後学期から、全学教育科目「大規模自然災害の科学」が開講。自然災害の発生原因の科学的理解や調査方法を学び、各学生が専門分野の研究で防災的観点を活かすことが期待されています。



静岡大学防災マイスター
称号を授与 -特別教育プログラム-

災害時の自己や他者の生命、災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルの獲得を目標として、所定の科目を修得した学生に称号を授与。修了対象者は、静岡県の認定講座受講により、県知事認証「ふじのくに防災マイスター」の称号も得ることができ、地域防災力の充実・強化に貢献しています。

探る

最先端の技術や
理論を究める研究

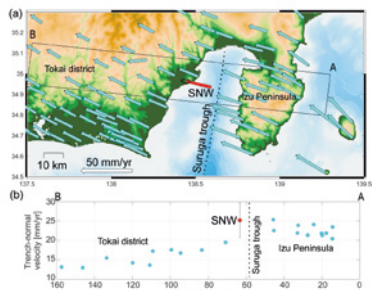


プレート境界地震の
準備過程のモニタリング
(地震物理学)



理学部 地球科学科
生田領野 准教授
(防災総合センター副担当)

プレート境界地震の準備過程における地殻の応力-歪み状態の観測や海底地殻変動観測手法の開発を目指して研究しています。駿河湾や沖縄先島諸島での海洋調査や地層調査を自ら行い、巨大津波発生メカニズムなど、海溝型地震の多様性について研究を続けています。



地殻変動の速さを矢印で示した速度ベクトル図



地殻変動観測のための海洋調査

防災総合センター長北村晃寿教授
(理学部／写真左)と副センター長牛山素行教授「地震防災」の授業を受ける学生たちとともに。



復興を地域のなかで、
地域とともに考える
(地域社会学)



情報学部
情報社会学科
望月美希 講師
(防災総合センター副担当)

災害からの復旧・復興に向けて人々の間でどのような動きがあるのか、地域社会学の視点から現場の事象を捉え、復興課題の解決や今後の災害対策への貢献に向けた調査研究と実践的な活動を行っています。2022年9月台風15号被害が発生した際は、研究室の学生有志で、ボランティア活動を実施しました。特に大きな被害を受けた静岡市清水区で中長期的な災害支援拠点「ふらっと」が立ち上がると、NPOや市民ボランティアとともに、子どもたちの居場所づくりや夏祭りなど地域の賑わいづくりに向けた活動に携わりました。



学生による災害支援拠点「ふらっと」での学習支援活動

高精度3次元画像計測を
災害の予兆検知につなげる
(画像計測工学)



工学部 電気電子工学科
橋本 岳 教授
(防災総合センター副担当)

屋外遠方にある対象物の微妙な動きを高精度に計測できる独自画像計測技術を応用し、立ち入り困難な土砂災害警戒区域の微小変化を計測し予兆を検知するシステムを開発しています。実験では100m先の変化をミリ単位で計測ができました。さらに、画像計測技術の応用として、インフラ構造物の健全性評価のための橋梁等のたわみ計測、コンクリートのひび割れ検出についても研究中であり、工学の防災への応用に鋭意取り組んでいます。



離れた場所でも災害の予兆を検知する装置の試作機

広げる

大学の知見を、
もっと地域へ、
社会へ、次世代へ



ふじのくに防災フェロー
養成講座 -静岡県との連携事業-

行政機関や指定公共機関等で防災に関する実務に従事している方を対象に2010年度から講座を開講。実践的応用力を身につけた中核的防災実務者の育成を目指し、これまでに111名が静岡県知事認証「ふじのくに防災フェロー」の称号を授与されています。講義は、防災総合センター担当教員及び客員教員(国内専門家)が務め、研究指導も行っています。

高校生を対象とした防災教育事業
BOSAIユースアンバサダー
プログラム

教育学部 藤井基貴准教授の研究室では、学生が防災の知識を高校生に教え、それをもとに高校生が防災と遊びを掛け合わせた「防災遊び」を考案し、子ども向け防災講座を企画・実施しています。静岡県、愛知県、宮城県などの高校で導入され、防災教育のネットワークづくりに貢献してきました。地域及び次世代に防災を伝え、広げることを目指しています。



藤井准教授(防災総合センター副担当／下段中央)と制作した防災教材を持つ研究室のメンバー

子どもにも楽しく
避難の重要性が
伝わる防災紙芝居



受講生の方からのコメント



2024年度受講生
山本貴之さん

(静岡県危機管理部危機政策課勤務
／2015年3月静岡大学人文学部卒業)

静岡県は地震・津波・富士山火山・洪水など多くの災害リスクを抱えています。私は普段、静岡県危機管理部で防災対策の推進を図るための業務を担当しています。本講座を受講したのも、防災分野に精通し多くの知見を有している先生方のお話を伺い、どうしたらよりよい普及啓発ができるか、実効性のある防災対策ができるかの参考にしたいと考えたからです。2024年1月に発生した能登半島地震では、半島災害ということで伊豆半島でも起こり得ることが顕在化しました。そういった課題に立ち向かっていくためにも、本講座で広く研究し、仕事に活かしていきます。